

# 要介護高齢者へのQOLを意図した包括的食支援

小山 珠美<sup>†</sup>第76回国立病院総合医学会  
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 1 (35–38) 2024

## 要旨

誤嚥性肺炎は要介護高齢者の心身が衰弱した状態でおこる全身疾患であることから、人生の最期まで食べ続けられるQOLへの支援が求められる。そのためには、不必要な絶飲食を避け、早期に経口摂取が開始できるような包括的支援のシステム作りが必要である。筆者らの研究では、急性期医療で入院した誤嚥性肺炎患者に対して、チーム医療体制を整え、食事介助技術のスキルアップ等による早期経口摂取開始を行った結果、在院日数短縮や退院時の経口移行率増加などの成果を得ることが示唆された。

その背景要因として、看護師が口腔ケアや姿勢調整などのケアを充実させ、解熱を見計らって医師と調整しながら経口摂取をより安全に開始したことや、リハビリテーション担当者と連携し早期離床を図ったことなどが、3食経口摂取までの期間を短縮し、退院時経口摂取に移行できる背景要因となっていたことが推察された。

また、要介護高齢者はすでに食べる機能が低下していることから、QOLを勘案した包括的評価を多面的に多職種で行っていく必要があり、KTバランスチャートを推奨する。困難や不足な点のみではなく、良好な面や強みを引き出し、人生の最期を人工栄養のみで寝たきりとなって過ごすことがないよう、口から食べる支援をしたいものである。

以上のことから、本稿では、超高齢社会に生きる要介護高齢者のQOLを意図した包括的食支援について紹介する。

キーワード：誤嚥性肺炎，要介護高齢者，QOL，包括的食支援

## はじめに

本邦は高齢化率が加速し、平均寿命も伸びているが、多死社会でもある。2020年の死因においては、がん、心疾患に続き、第3位は老衰であり、老衰および誤嚥性肺炎の死亡率が増加している<sup>1)</sup>。いずれ

も背景には摂食嚥下障害に関連した併存疾患を多数有している要介護高齢者であり、超高齢社会がもたらす逆らえない命の摂理といわざるを得ない。本稿では、誤嚥性肺炎や認知症を有した要介護高齢者の食べる幸せを守るためのQOLを意図した包括的食支援について述べさせていただく。

NPO法人 口から食べる幸せを守る会 / JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院 看護部 (摂食機能療法室) <sup>†</sup>看護師  
著者連絡先：小山珠美 NPO法人 口から食べる幸せを守る会 / JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院 看護部 (摂食機能療法室)  
E-mail : koyama.taberus@gmail.com  
(2023年1月13日受付 2023年4月14日受理)  
Comprehensive Food Support with the Intention of Quality of Life for Elderly People in Need of Care  
Koyama Tamami Isehara Kyodo Hospital  
(Received Jan. 13, 2023, Accepted Apr. 14, 2023)  
Key Words : aspiration pneumonitis, Care for the Elderly, quality of life, food support included